

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1171700261
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	こうのすケアセンターそよ風
所在地	365-0036 埼玉県鴻巣市天神4-32-1 (電話) 048-542-3260

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成20年1月31日

【情報提供票より】(平成20年1月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	8 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 12.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	35,000円 + 実費	
敷金	有( 100,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,400 円		

### (4) 利用者の概要(1月4日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	69 歳		92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	こうのす共生病院、埼玉脳外科病院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は市街地のはずれに位置している。同一建物の中にデイサービス、ショートステイ、ホームヘルプ等が同居し、グループホームは2階部分で2ユニットである。ユニット間は自由に交流できるようになっており、全体としてまとまりがある。共有空間は広々としてゆったりとくつろげる場所となっている。利用者職員は和やかな雰囲気の中で共に生活している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、多くの課題が提起されていたが、管理者と職員の努力でかなり改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、職員間で話し合い、その内容について職員全員の共有が図られている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者の状況、施設運営などの報告がなされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会にくる家族にはそのつどホームに対する意見や苦情を伺ったり、ホームに来られない家族にはこまめに手紙、電話で連絡している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>納涼祭などのホームの行事には地域住民に参加を呼びかけている。地域の盆踊りや祭り等行事の際には積極的に参加し、地域との交流を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員とも話し合い、法人の理念とは別に事業所独自の理念をつくりあげている。住み慣れた地域や環境で安心して暮らしていけることを第一に考えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアの中で常に理念を意識して業務に取り組んでいる。また、色々な問題が発生するたび、理念に立ち返ってどうあるべきかを職員と話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームで納涼祭等の行事を開催する際には、地域住民に参加を呼びかけている。また、地域で盆踊りや祭り等の行事がある際には積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価については、ミーティングで話し合いをしたり、事務所に提示することで職員全員で共有し、課題の改善に向けて努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、施設の現状について報告し、参加メンバーから意見を頂き、ホームの運営に活かしている。		

埼玉県 こうのすケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者が施設に来所することは少ないが、こちらから事業所の実情やケアサービスの取り組みを機会あるごとに伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には利用者の日頃の生活の様子を来訪時に詳しく説明している。手紙、電話等でも連絡している。出納帳に家族のサインをもらい、金銭管理についての報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年1回開催している。家族に対しては話しやすい雰囲気づくりを心がけている。また、意見箱も設置している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	毎年、退職や異動する職員が2～3人いるが、職員の異動等の際には利用者へのダメージを防ぐため、ベテラン職員が対応にあたるなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内ではユニット毎に月1回、全体で月1回のミーティングを行っている。また、法人全体でブロック会議を月1回実施し、職員育成に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社との交流は少ない。法人内での関連事業所でのブロック会議は行っている。今後、地域の同業者との交流を増やしたいと考えている。		他法人の同業者と交流することにより、職場内で行き詰まっている日頃の仕事の悩みや緊急時の連携をスムーズにする等、事業所や地域全体のサービス水準の向上につなげることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>同じ建物の中でデイサービス、ショートステイ、ヘルパー派遣事業を行っており、それらの利用者が入居する例が多いため、ホームの利用者や家族にとって馴染みやすい。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の先輩であると認識し、教えてもらうことも多い。それぞれの知識、体験を生かした料理、裁縫、植物栽培など楽しみながら一緒に生活している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人の生活歴などを聞いているが、日々の利用者との関わりや、家族から良く話を聞き、それぞれの思いや意向を把握している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の要望を聴いたり、現在の課題について職員全員で検討し、介護計画の作成に生かしている。また、アセスメントシートの記入内容などを改善し、本人の状況把握や意向に沿ったプランを作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとの評価を行っているが、状況の変化や家族、本人の意向や要望に応じてそのつど見直しをしている。</p>		

埼玉県 こうのすけアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。また、希望に応じて買い物や遠方の外出にも臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じかかりつけ医を決めている。ホームへは近隣の医師が月2回往診に来てくれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者全体が重度化してきており、重篤化や終末期等についての対応を検討中である。現在は、医師の意見を聞き入院するケースが多い。		終末期に対する指針や具体的なマニュアルの整備の際には、医師、看護師、本人、家族等と十分話し合い、体制づくりをすることが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の人格を傷つけるような言葉かけや態度がないよう常に留意している。記録等の個人情報は鍵のかかる場所へ保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中は散歩と作業レク、午後はゲームと入浴等おおまかな流れはあるが、その日の利用者一人ひとりの気持ちや体調に配慮し、決まりを優先せず、個別対応を心掛けている。		

埼玉県 こうのすけアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事できるよう心掛けている。また、利用者の体調や障害の程度に応じた食事を提供するよう配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後からとなっている。仲の良い方同士で一緒に入っていたりしている。入浴嫌いな人にも職員が言葉がけを工夫して入浴に繋げている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の後片付け、掃除、植物の水やり、書道、貼り絵等、それぞれの個性に合った気晴らしや喜びなどが持てるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の悪い日以外は近所へ散歩に出かけている。また、桜、バラ、コスモスなど季節毎の花見は利用者に変喜ばれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は2階にあり、出入口部分である階段とエレベーターは利用者の安全確保のためやむを得ず施錠されている。なお、各ユニット同士は夜間以外行き来は自由にできるようになっている。		利用者一人ひとりの外出のくせや傾向をつかんだり、近所の人に協力を求める等、日中少しでも出入口の鍵をかけないケアの工夫に努め、取り組んでいただくことを期待する。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けながら、避難訓練、消火訓練等を実施している。		

埼玉県 こうのすけアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量については、摂取状況を毎日チェック表に記録し、利用者一人ひとりの状況を把握して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の貼り絵や書道作品、イベントの写真、観葉植物や花を飾ったりして季節感や家庭的な雰囲気が感じられるよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはこたつ、カーペット、テレビ等の持ち込みが自由であり、利用者にとって居心地の良い部屋となっている。		